
もしもあなたの色模様

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもあなたの色模様

【Nコード】

N6503B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

小説よりも本当はあたしはあなたのことが知りたいんです。

「あー、わかんない。わかんないよ。もう根本からわかんないよ」

「へー、そう」

「あ、今、来るって思ったでしょ？」

「何がー」

「わかってるくせにい」

「もー、いいよ。聞いてよ」

「じゃあ、いい？ えっとね、今まあ、大雑把に言うとおLの恋愛って感じの小説を書いてるんだけどさ、えっと、もしも長くてさらさらな髪の人がバツサリ髪切ったらどう思う？」

「暑かったんじゃないかなーって思う」

「えー、普通失恋したのかな？ とかじゃない？」

「いまだきそんなありふれた人いるのかなあ？」

「まあー確かにあたしはみたことないけど…。ま、いいや。次。外歩いてて、歳が同じくらいのおLに話しかけられたらどうする？」

「内容によるけど、逆ナン？ みたいな」

「ははー、幸せなことだね」

「俺なら、だろ？」

「うん、そう。だからまあ、それでいいんだけど。じゃあ、付き合ってる子との電話が突然切れたらどう思う？」

「電波悪いのかなって、まずは思う」

「なるほどね」

「いきなり変に考えちゃだめでしょ」

「そーだね。じゃあ、彼女が何の前触れもなく謝ってきたら？」

「全部許しちゃう」

「太朗らしいね」

「そう？ てか、俺にそんなに質問したら、リツの小説、俺が主人公になっちゃうんじゃないのー？」

「んー…、そだね。じゃあ、これが最後の質問！」

「よし、こい！」

「もしもあたしが太朗のこと好きだよって言ったら？」

「最近、言われてないからなあ…。だけどやっぱ、俺も好きって、言うんだろうな」

「好きだよっ」

「俺も、好き」

「ホントだ。言った」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6503b/>

もしもあなたの色模様

2011年1月20日02時01分発行